

主な出来事

【内政】

- 北西州の新首相（デボホ・ジョブ・モホロ氏）選出

【外交】

- BRICS 外相会談の開催
- ガリ西サハラ「大統領」の南ア訪問
- ラマポーザ大統領のG7シャルルボワ・サミットのアウトリーチ会合への出席
- ラマポーザ大統領のSACUサミット出席

【経済】

<経済指標>

- 経済成長率
- 消費者物価指数（CPI）
- 為替レート
- 製造業
- 鉱業生産高
- 自動車販売台数

<出来事>

- ガソリン代の高騰
- アフリカの廃棄物処理に関する報告書
- 南ア国債の信用格付
- メルセデス・ベンツ社の事業拡大
- 鉱業憲章2018のパブリック・コメント募集開始

【広報・文化】

- 草月いけばなデモンストレーション・ワークショップの開催

【警備】

- 邦人の犯罪被害発生状況（2018年上半期）

1 内政

●北西州の新首相（デボホ・ジョブ・モホロ氏）選出

22日、北西州の新首相としてANCのデボホ・ジョブ・モホロ（Tebogo Job Mokgoro）氏（70歳）が選出された。同州では、5月24日にスープラ・マフマペロ（Supra Mahumapelo）前首相が自身の汚職が原因で辞任し、首相不在となっていた。

2 外交

●BRICS 外相会合の開催

4日、ブラジル、ロシア、インド、中国および南アの外務大臣は、プレトリアにてBRICS外相会合を開催した。政治、安全保障、経済、財政および持続可能な開発分野における世界的に重要な問題についての意見交換が行われた。

●ガリ西サハラ「大統領」の南ア訪問

5日、ラマポーザ大統領は南アを実務訪問中のガリ西サハラ「大統領」と会談した。ガリ「大統領」は、SADC 首脳及び南ア政府が西サハラへの連帯のための会合の開催を決定したことを歓迎した。

●ラマポーザ大統領のG7シャルルボワ・サミットのアウトリーチ会合への出席

8-9日、ラマポーザ大統領は、G7シャルルボワ・サミットのアウトリーチ会合に出席した。ラマポーザ大統領のG7サミット・アウトリーチ会合への出席は、経済成長・雇用創出・貧困削減のための投資増大イニシアチブと軌を一にするものである。

●ラマポーザ大統領のSACUサミット出席

29日、ラマポーザ大統領は、第6回SACU（南部アフリカ関税同盟）サミットに出席するためにボツワナを訪問した。

3 経済・開発協力

<経済指標>

●経済成長率

2018年第1四半期の実質GDP成長率は、前期比マイナス2.2%となり、エコノミストの事前予想を大幅に下回る結果となった。消費中心の傾向にある南ア経済では、第4四半期で高い成長を記録し、その結果として第1四半期は低成長になることは稀ではない。しかし、こうした特徴を踏まえても成長率が予想を下回る要因となったのは、主に農林水産業の大幅な生産減が挙げられる。南ア統計局は、2018年第2四半期以降は景況改善や投資増大などで、GDP成長率は改善すると見込み、2018年全体では前年1.3%を上回る1.7%程度と予想。（6月5日、南ア統計局）。

●消費者物価指数（CPI）

5月の消費者物価指数（CPI）が前月比0.1%減で4.4%。国内の物価は先月から平均して0.2%上昇した。主に、運送部門では前月比1.2%増加。（6月20日、南ア統計局）

●為替レート

2018年6月29日付（南ア準備銀行）

8.0545 円/ランド

13.7432 ランド/米ドル

15.9895 ランド/ユーロ

●製造業

南ア統計局によると、4月の製造業生産高は前年同月比1.1%増。主なプラス要因は、石油・科学製品、ゴム及びプラスチック製品で4.0%増、食品・飲料製品で2.6%増。他方、木材・木製品・製紙・出版及び印刷製品で5.1%減、ラジオ・テレビ・通信機器及び専門機器で19.9%減。

季節調整後生産高は、前月比0.6%減。過去3ヶ月間（2月～4月）の季節調整後生産高は、前の3ヶ月間に比べて3.0%減。主な要因は製造業10部門中8部門での生産減。

●鉱業生産高

南ア統計局によると、4月の鉱業生産高は前年同月比4.3%減。最大のマイナス要因は、PGMsで6.5%減、その他の鉱物で36.3%減、ダイヤモンドで24.1%減、及び金で5.7%減。

季節調整後生産高は、前月比2.0%減。過去3ヶ月間（2～4月）の季節調整後生産高は、前の3ヶ月間に比べて3.4%減。主な要因は、12の鉱業分野のうち、10分野での生産減。

●自動車販売台数

南ア自動車工業会（NAAMSA）は、6月の自動車販売台数を発表し、前年同月比3.0%増の46,678台を記録。全体の販売台数のうち、ディーラー販売が82.5%、次いでレンタカー業界が11%を占めた。新車販売は前年同月比4.4%増で29,886台となり、特にレンタカー業界での販売が前年同月比15.1%伸びた。業界全体としては、国内販売台数を新車販売が押し上げ、国外市場は落ち込みをみせた（前年同月比15.2%減）。

例年、販売台数は下半期が上半期を上回る傾向にあるため、2018年の年間販売台数は前年よりも伸びることが予想される。

<出来事>

●ガソリン代の高騰

1日、南ア国営企業Central Energy Fundはガソリン各種の値上げを発表。6日付で施行された新価格（ハウテン州の場合）は次のとおり。

- ・レギュラー 15.54 ランド/リットル （前月から約5%値上げ）
- ・ハイオク 15.79 ランド/リットル （前月から約5.4%値上げ）
- ・ディーゼル 14.18 ランド/リットル （前月から約6%値上げ）
- ・灯油 9.27 ランド/リットル （前月から約9.7%値上げ）
- ・液化石油ガス（LPG） 25.22 ランド/リットル （前月から約7%値上げ）

今回の値上げ措置の背景には、協議をおこなった時期にランドの対ドル相場が4.4%減価だったことが要因。また、ガソリン代は2017年よりほぼ毎月値上げしており、本年4月から5月にかけてもガソリン代は高騰している。なお、同企業は29日、さらなる値上げを発表（7月4日施行予定）。

●アフリカの廃棄物処理に関する報告書

5日、世界環境デーにあたるこの日、UNEP及び南アのCouncil for Scientific and Industrial Research（CSIR）は、アフリカにおける廃棄物マネジメントの現状をまとめた初となる報告書を発表（於プレトリア）。本報告書では、アフリカで生産される廃棄物のリサイクル率は4%に留まり、人体に有害な廃棄物も含まれ、アフリカ連合が掲げる目標、「2023年までの廃棄物リサイクル率50%」から遠いとした。

●南ア国債の信用格付

15日、Fitch社は南ア信用格付を外貨建て及びランド建て国債の格付けをジャンク級（+BB）に据置き、見通しを「安定的」としたことを発表。先月にはS&P社も外貨建て及びランド建て国債をそれぞれジャンク級の（BB）及び（+BB）に据え置き、見通しも「安定的」と不変とした。

●メルセデス・ベンツ社の事業拡大

メルセデス・ベンツ社は、イーストロンドンにある自社工場に新たに6億ユーロ（約100億ランド）を投資し、次世代c-class車及び新型Mercedes-AMGを主に輸出向けに製造するなど、事業拡大を行うことを発表。これは南アの自動車業界において、1社による最大規模の投資となる。（27日Economic News紙）。

●鉱業憲章2018のパブリック・コメント募集開始

15日、鉱物資源省（DMR）は、鉱業憲章改正案（鉱業憲章2018）を公表し、30日間のパブリック・コメント募集を開始した。今般の改正案は、昨年6月に公表された鉱業憲章改正案（鉱業憲章2017）から、部分的に経済界の意見が反映されているものの、引き続き鉱業分野における規制強化および黒人投資家へのさらなる優遇を促進する内容となっている。鉱業憲章2017円からの主要な変更点は、①既存の鉱業事業者に対しては、過去に黒人所有率が26%以上到達していれば、鉱業憲章2018の施行日時点で26%を満たしているも

のと見做し、追加的に黒人所有率を5年以内に4%引き上げること(Once Empowered、Always Empowered)としている点、②達成すべき義務的数値が一部引き下げられている点、③曖昧な記述が一部明確にされた点等が挙げられる。

業界団体の資源会議 (Minerals Council : 鉱業協会 (Chamber of Mines) の後身) は、今般の改正案が、ラマポーザ大統領が掲げる投資誘致政策に矛盾すること、本年4月に高裁判決が下された内容や DMR が過去に合意した内容にも反しており、一部の規定は憲法や会社法に抵触することなどから、関係団体として協議を継続する姿勢を明らかにしている。

4 広報・文化

●草月いけばなデモンストレーション・ワークショップの開催

15日、当館多目的ホールにおいて、当地訪問中のいけばな草月流東京本部講師(前田早苗理事ほか)によるいけばなワークショップ・デモンストレーションが行われた。講師陣による熱の入ったワークショップ・デモンストレーションで、「個性」を尊重した自由な表現を求めることで知られるいけばな草月流の魅力が、余すところなく伝えられた。デモンストレーションにおいては、野菜を用いた斬新な作品に対し、聴衆から賛嘆の声が上がった。ワークショップにおいていけばなを初めて体験した多くの参加者は、講師陣から手ほどきを受けつつ、慣れない手つきながらも鉋や剣山を用いて、それぞれ思うところを表現した。参加者からは、「優雅な装いの講師から懇切丁寧な指導を受けられ、非常に意義深い経験が出来た。今後もいけばなを続けたい」といった声が寄せられた。

5 警備

●邦人の犯罪被害発生状況(2018年上半期)

南ア国内における、本年1月から6月までに発生した邦人を被害者とする犯罪の発生件数については12件で、2017年上半期と比べ5件の減少となった。

昨年急増した強盗の被害がなくなった一方で、置引き・車上ねらい(窃盗)の被害件数が増加した。車上ねらいには、ガラス・鍵等車の破壊及びジャミングの手口があり、車内には貴重品を残さないことが肝要。

ATMで現金を引き出す際にデビットカード等をすり替えられ、後刻カードを不正使用される事案が引き続き発生している。この種事案の対策として主要銀行が提供する「カードレス現金引出サービス」は有効である。

罪種(手口)		2017年(上半期)	2018年(上半期)
窃盗	自動車盗	0件	1件
	置引き	2件	4件
	車上ねらい	0件	4件
	侵入盗	3件	0件
	スマッシュ・アンド・グラブ	0件	0件
	偽警察官による窃盗	1件	0件
	スキミング/ カード不正使用	1件	3件
強盗	路上強盗	2件	0件
	カージャック	2件	0件
	偽警官による強盗	5件	0件
その他		1件	0件
計		17件	12件